

第 5 回ヤマブキ杯少年サッカー親善大会報告

平成 18 年 12 月 26 日

監督 石田 清治

コーチ 木幡 正人

第 6 期ひたちなか市トレセンとして第 5 回ヤマブキ杯少年サッカー親善大会に参加した結果をご報告させていただきます。

1.概要

(1) 日時

平成 18 年 12 月 16 日 (土曜日) 17 日 (日曜日)

(2) 会場

茨城県 常陸太田市 白羽グラウンド

(3) 大会参加チーム：18 チーム

グループ名	チーム名		
グループ A	常陸太田 C	滑川	水戸
グループ B	埴山	常北	アストロン
グループ C	大久保	日高田尻	久慈
グループ D	常陸太田 B	荒谷台	坂本
グループ E	常陸太田 A	吉田ヶ丘	石川
グループ F	長岡	ひたちなか	中郷

2.試合結果

1 試合目 対 長岡 9 : 15 / グループリーグ

ひたちなか市 1 対 1 長岡

(前半 0 対 1)

2 試合目 対 中郷 12 : 15 / グループリーグ

ひたちなか市 2 対 1 中郷

(前半 1 対 1)

3 試合目 対 常陸太田 15 : 30 / グループリーグ

ひたちなか市 4 対 0 常陸太田

(前半 3 対 0)

2 日目/決勝リーグ

位リーグ	チーム名		
1位 リーグ	ひたちなか市	アストロン	日高田尻

1 試合目 対 アストロン (福島県いわき市) /決勝リーグ

ひたちなか市 1 対 1 アストロン

(前半 0 対 1)

2 試合目 対 日高田尻 /決勝リーグ

ひたちなか市 7 対 0 日高田尻

(前半 3 対 0)

3.その他

(1) ピッチ状態及び天候

芝のグラウンドであり、芝が長いことでボールが転がりにくかった。また、天気は曇りで 15 度前後の気温であった。

4.試合について

(1) アストロン (福島県 いわき市) 戦 / 決勝リーグ

中盤の速いアプローチからボールを奪い、左サイドから精度のあるセンターリングで得点を奪う。また、ドリブルによる 1 対 1 を積極的に行うチームであった。

開始直後に OG による失点やけが人の発生など今まで経験のないことが起こり精神的なことからプレーが消極的になり相手に主導権を握られた。1 対 1 で積極的にチャレンジするチームとの差が明確に表れた前半であった。

指示としてトレーニングしていることである 1 対 1 でのチャレンジを積極的に行ってほしいことを伝え、向かえた後半は積極的に 1 対 1 を行い、競り勝つ場面が多くなり自分達の仕掛けるサッカーが時間を追うごとにできた。同点ゴールはコーナーキックから押し込んだ得点であった。

(2) 日高田尻 (日立市) 戦 / 決勝リーグ

試合結果から 3 点差以上であれば優勝という試合でいかに 1 対 1 でチャレンジする積極性を持ってプレーできるかを選手に伝えた。選手の意気込みが試合開始から現れ、前線、中盤での積極的な厳しい守備からボールを奪い試合を支配し相手を攻守において圧倒し得点を重ねることができた。

5.大会を通じて

今大会の課題として

(1) 1対1ではチャレンジしよう

「1対1に強くなろう」はトレセン発足時に掲げた指導方針です。大会というトレーニング時とは違う雰囲気の中でどのようなチャレンジができるかを課題としました。攻守において自分から仕掛けることでボールを奪うことが大会全体を通じてできていましたが、アゴロチの速いチームとの対戦では1対1で消極的になりボールを簡単に奪われる場面がみられた。自分達で仕掛けた場合は随所にゴールを奪う可能性の高い攻撃や気持ちで負けない力強い守備ができたこと。簡単にボールを蹴らない、簡単にタッチに逃げないというような場面が多く見られたことはトレーニングの成果として受け止めることができた。

(2) 見せるサッカー

通常トレーニングでは個々のスキルアップしか行っていないことから見せるサッカーという観点からどのようなプレーをするかを意識させ試合に挑んだ。

常陸太田戦では個々のスキルを十分に発揮し、ドリブル突破やターンなどトレーニングで行っている個人技が多くみられた。また、日高田尻戦ではドリブル突破やターンのほかに難しいボールコントロールからのスルパスや中盤での速いパス交換、サイドバックのオーバーラップからのセタリングなどいろいろなバリエーションを表現していた。

今大会の出場はトレセン活動としては半信半疑でしたが、試合毎に勢いが増して日頃のトレーニングである個々のスキルを予想以上に発揮できたこと。また、見せるサッカーを自分達の観点から表現できたことなど大きな成果が得られました。選手のサッカーに対する姿勢やトレーニングの成果を確認する場所としてこのような大会にトレセンチームとして参加させて頂いた各少年団の皆様にはお礼を申し上げます。

トレセンチームではなく選手個々の技術、サッカーへの姿勢などを重点に活動をおこなっていることから練習や練習試合ではない雰囲気での試合ができたこと、個々の持っている高い技術を発揮できたことは今後のトレセン活動に活かしていきたいと考えております。

最後になりますが、大会参加中に選手が自主的にボールや衣類をベンチ裏にきれいにたたんで置いていました。対戦相手の監督から「ひたちなか市トレセンはサッカーだけではなく人間的にも教育されていて素晴らしいですね」とお褒めの言葉をいただきました。これは父兄、各少年団の指導、教育の成果だと思えます。トレセン活動でも選手の自主性を引き出し指導していきたいと思えます。今後ともご協力、ご理解を宜しくお願いします。